

対話型鑑賞体験会



スライドの二次利用はお控え下さい

対話型鑑賞とは/対話型鑑賞の概要

- ✓ 1980年代のニューヨーク近代美術館(MOMA)で開発された美術鑑賞法
- ✓ 英語ではVTS(visual thinking strategy)と呼ばれる
- ✓ 作品の知識ではなく、その場で感じた感想や想像をもとに他の鑑賞者と話し合うのが特徴
- ✓ 観察力や言語力、創造力などさまざまな能力を向上させることがわかっている
- ✓ 近年では美術館だけでなく、学校教育や企業研修、医療従事者への教育などさまざまな分野で活用されている



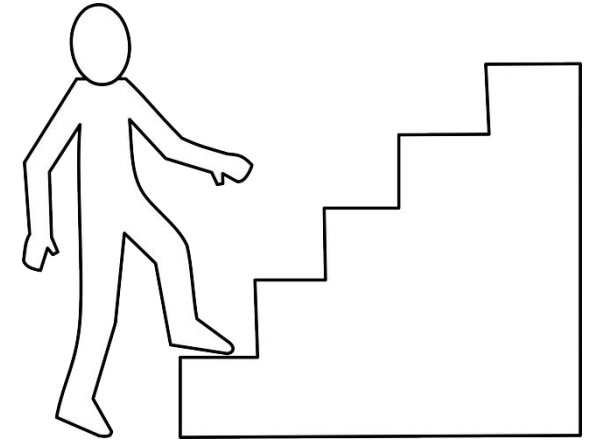
対話型鑑賞の歴史



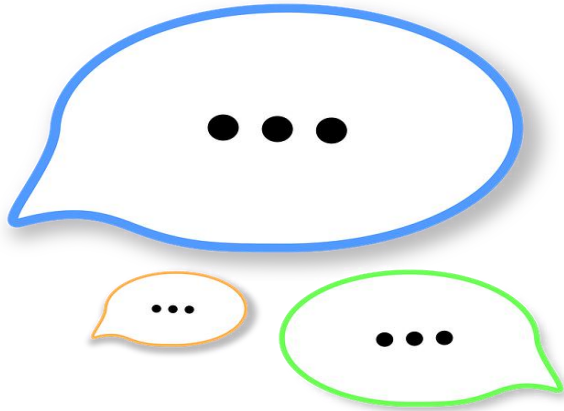
1970年～ 美術館冬の時代



来館者の調査



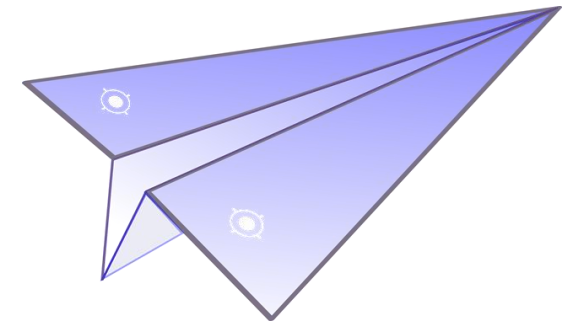
1983年 美的発達段階を提唱



1980年後半 VTCを開発



NY市内の小学校で
5年以上の歳月を重ね効果を実証



1990年～ 日本にも紹介される

美的発達段階とは

認知心理学者のアビゲイル・ハウゼンが提唱 美術鑑賞における発達段階としての 美術発達段階を提唱(1983)

美的発達段階

stage I【物語の段階】鑑賞者は物語の語り手となり、物語を創造する

stage II【構成の段階】鑑賞者は自身の知覚、価値観、世界観で枠組みを作る

stage III【分類の段階】美術史的な文脈で、作品の背景などを明らかにしながら鑑賞する

stage IV【解釈の分類】線や形、色など注意深く見て作品の意味するところを探る

stage V【再創造の分類】個人的な熟考と作品の背景を結びつけ、作品と何度でも出会う

来館者の8割以上がstage I もしくはIIだった

Stage I はこんな人

自分の記憶や経験へと話が逸れて
鑑賞からどんどん離れていくのが特徴

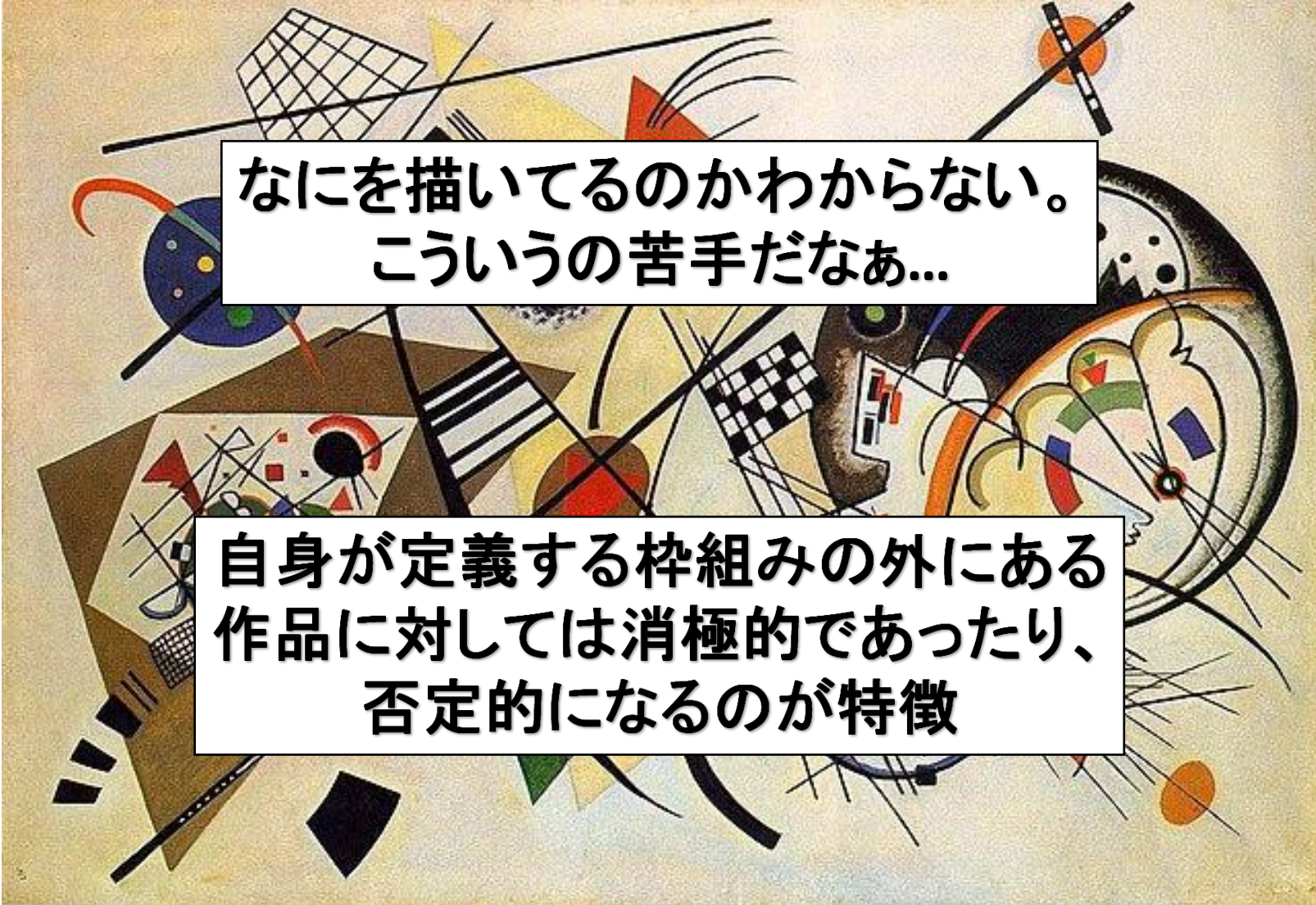


Stage II はこんな人



リアルに描いてすごいなあ...

Stage II はこんな人



なにを描いてるのかわからない。
こういうの苦手だなあ...

自身が定義する枠組みの外にある
作品に対しては消極的であったり、
否定的になるのが特徴

来館者の調査により

来館者の8割以上がstage I もしくはIIだった

Stage I、IIの人は
鑑賞をサポートする必要があるとわかった

順序に沿って発達するもので、
Stage Iの人が急にIIIやIVにはならない

年齢によって自然に発達するものではない



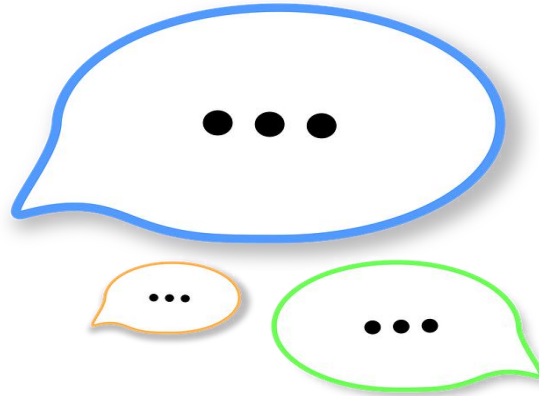
対話型鑑賞のやり方



ファシリテーターの進行のもと



① 作品をしっかり見る



② 感じたことを発言する
(挙手)



③ 他の人の意見を聞く



重要なポイントとして

作品名や作品の背景に関する情報は伏せたまま行われる

作品の知識を披露する場ではない

正解などは一切ない。自由に発言してOK

他の意見を聞いて意見が変わってもいいし、変わらなくてもいい

なにか質問はありますか？



準備はいいですか？



ここで作品を提示

お疲れ様でした！



絵.cocoroでのサービス



無料体験会

- ・不定期で開催中
- ・何度でも参加OK



メンバーシップ

- ・月に1~2回実施
- ・noteで募集中



個別VTS

- ・1対1で実施
- ・30分、60分、90分コース
- ・ココナラで実施中